

健康の自己管理能力を養う食育支援 ～生きる力を確かなものにする 青年期の食育支援プログラム～

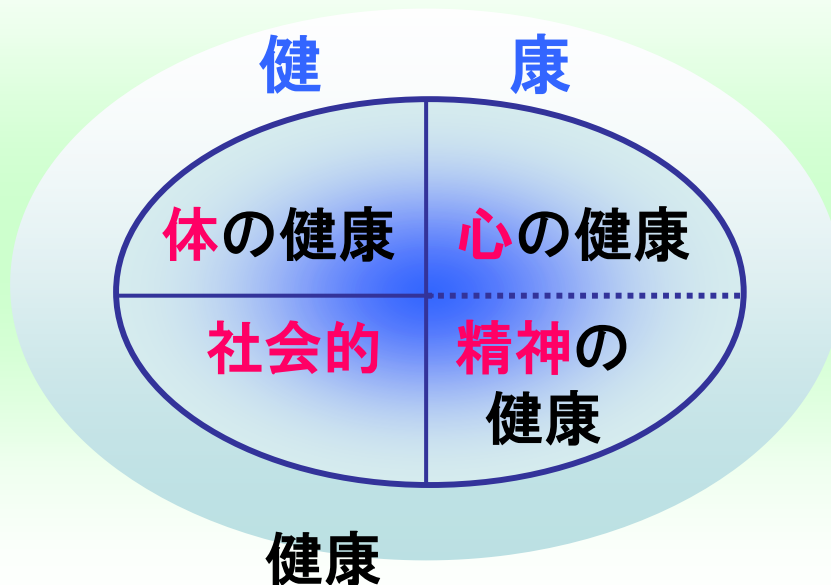
キーワード

健康の自己管理能力，食の営みの自立，
食の個人文化，食の感性，農業体験「自産自消」

東北福祉大学 ホームページ：<http://www.tfu.ac.jp>

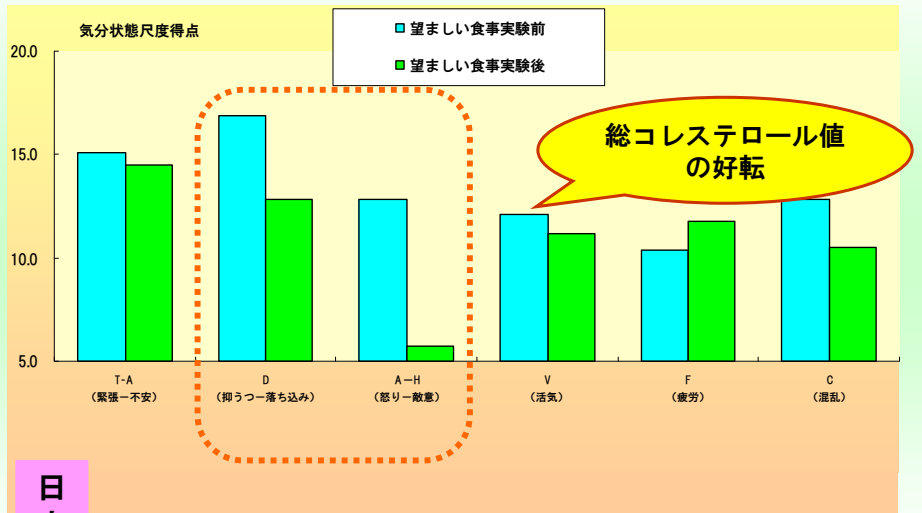
この取組における「健康」の捉え方

2



適切な食事と気分状態の改善（女子）

3



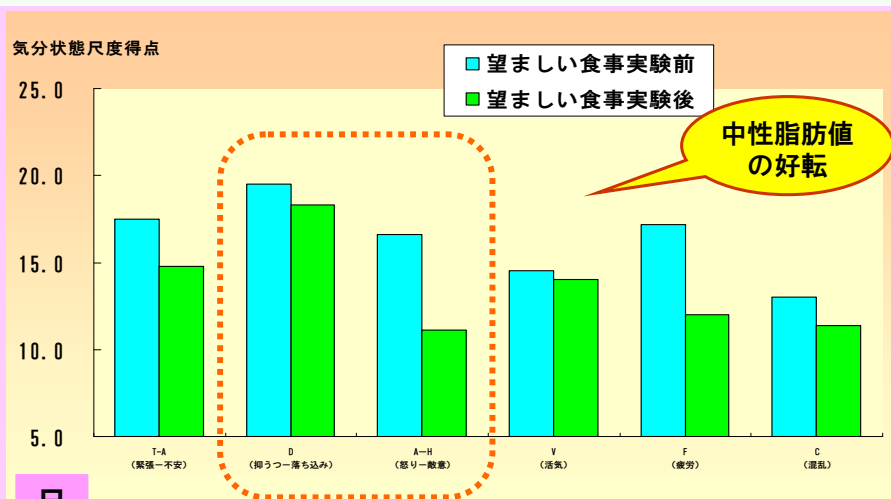
日本型

望ましい食事摂取による気分状態の改善状況

出典：東北福祉大学『感性福祉研究所年報第3号』2002年3月

適切な食事と気分状態の改善（男子）

4



日本型

望ましい食事摂取による気分状態の改善状況

出典：東北福祉大学『感性福祉研究所年報第3号』2002年3月

取組の社会的背景

5

核家族化の進行・女性の社会進出など

家庭の食育機能の低下

一人暮らし
の大



依存

補完

サービスの外部化

- ・即席カップ麺
- ・市販弁当
- ・外食 など

食生活習慣の乱れ

偏食・脂質摂取過多など

生活習慣病予備軍

食育機能低下の次世代継承

食育支援
の必要性

食育に関する国の対応

6

社会的ニーズの高まり

- ← 生涯現役
- ← 生活習慣病予防
- ← 国民医療費抑制 など

食育に関する国の動き

- 2000年3月 食生活指針を文部省・厚生省・農林水産省が共同策定
- 2003年2月 児童の食育展開推進
- 2004年3月 幼児の食育指針策定
- 2005年7月 食育基本法施行

学生を健康面で支援する組織

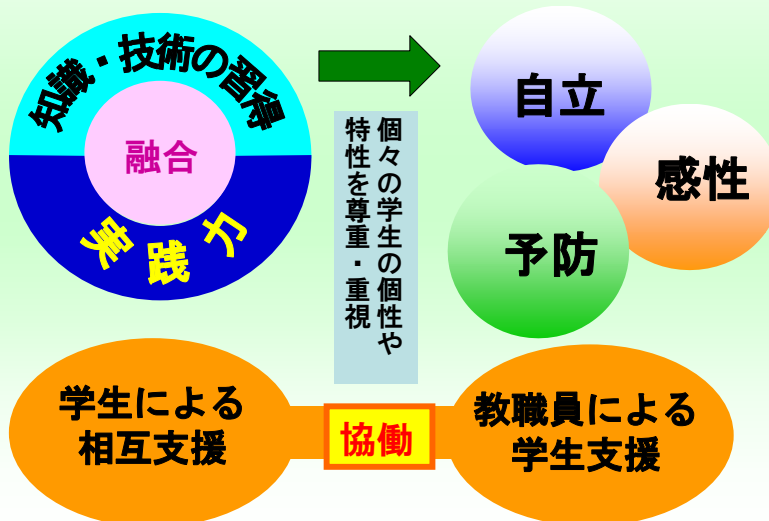
7



学生支援の理念・目的

8

建学の精神：**行学一如（ぎょうがくいちによ）**



実践教育フィールド

9

保育所

特別養護老人ホーム



幼稚園



主な大学関連施設

食工房「風土」



コミュニティセンター



大学附属病院



「生きた理論」の習得：実学教育の推進 ¹⁰

理論と実践の融合

実学臨床教育推進の場

(認知症介護研究・研修仙台センター)



関連福祉施設
(グループホーム)

教育フィールド
への還元



実学教育寮 (喜心寮)

地域減災センター

11

主な取組

- 1 地域減災に関する情報提供・相談支援
- 2 学生による減災出前講座のコーディネート
(災害時非常食づくり・災害時要援護者体験など)
- 3 地域社会との連携・協働の推進

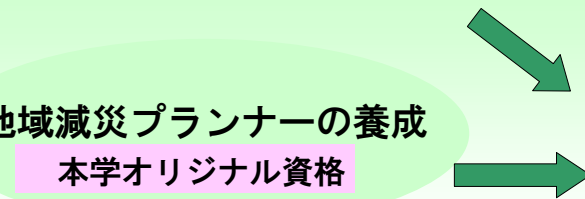


宮城県沖地震

30年以内に99%の発生確率

地域減災プランナーの養成
本学オリジナル資格

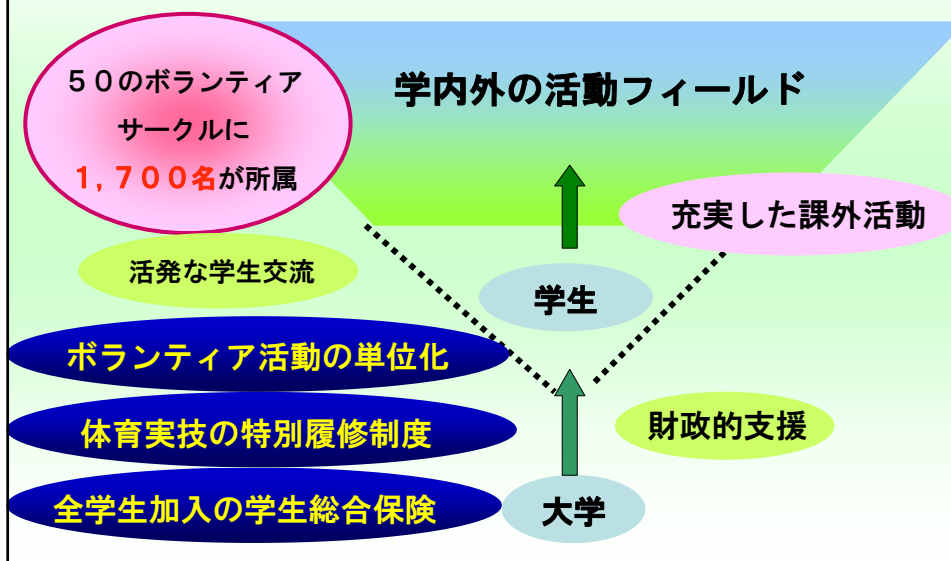
安心・安全な街づくり



部・サークル活動による心身の鍛錬・感性の陶冶

12

全学生の70%が体育会・文化会・同好会に所属(平成18年度調べ)



感性教育活動の推進

13

音楽堂「けやきホール」



茶室 道庵



座禅堂



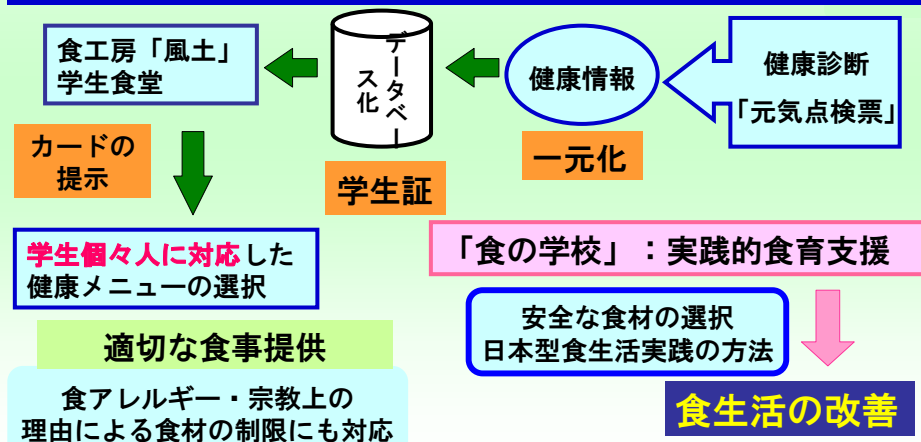
芹沢銈介美術工芸館

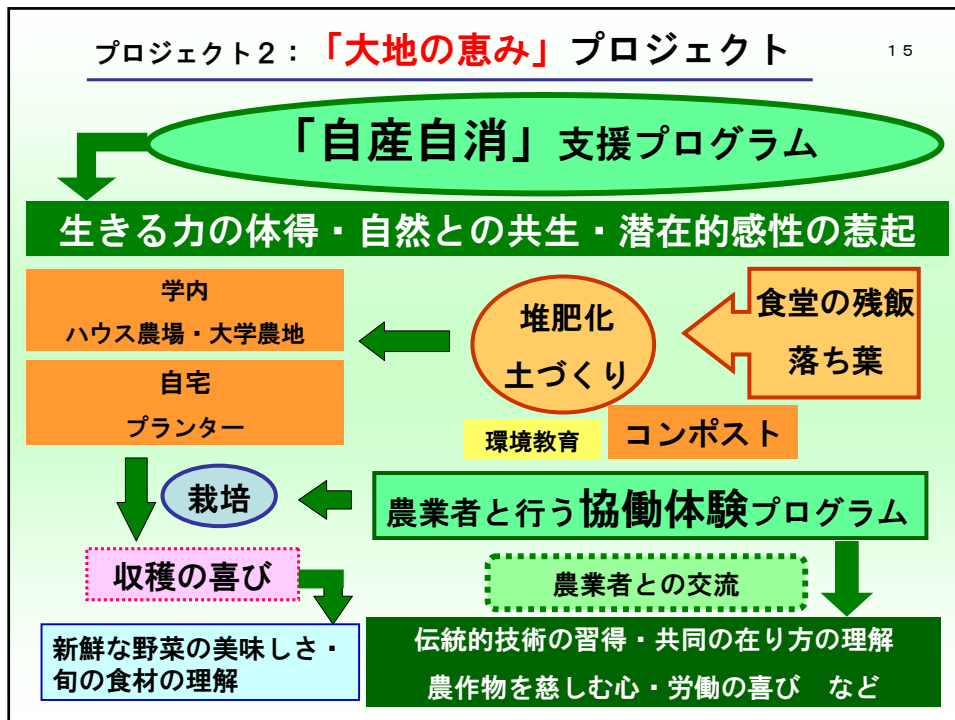


プロジェクト1：学生の食生活調査をもとにした食育支援 14

健康教育支援・支援情報の一元化システム

自己の健康状態の把握・望ましい食生活の意識高揚





堆肥づくりの場 (コンポスト)



大学農地



学内ハウス農場



地元契約農家の農地



大地の恵み
プロジェクト

プロジェクト3：「一人暮らしへのエール」プロジェクト¹⁷

学生の食生活を支えるプログラム

安全安心食材や調理法の理解・食生活の質の向上

「開けよう**食材の窓**」支援 食材理解・食文化理解

「食べてエンジョイ！ひとり暮らし」**レシピ集**

学生**食堂のメニュー**開発・食堂での**食の情報提供**

「納得！安心！**大学いちば**」 食材理解・郷土料理理解

学生とともに
行う活動

食の
営みの
自立



教育・研究と実践的食育支援の相乗効果¹⁸

保育士コース 教員養成コース

養護教諭養成コース

食品衛生コース

健康科学部：保健看護学科

子ども科学部：子ども教育学科

環境教育（ゴミ問題・エコ対策）

消費者教育（食の安全・安心）

建学の精神：行学一如

理論的健康教育

+

実践的食育支援

健康教育力の強化

取組の改善・評価について

19

評価の観点

- ・ 支援の広範さ
- ・ 健康管理能力や食の営み
- の自意識の向上の様子
- ・ 食文化理解，食環境の改善，食の安全の確保，食生活の質の向上の様子，人間関係の深化の様子
- ・ 心身の健康状態の改善状況
- ・ 支援プログラム内容やシステムの運用上の有効性

学内評価

食育支援評価委員会

定期的評価会議

学外評価

学生支援GP評価委員会

評価結果の活用

プログラム内容やシステムの改善

- ・ 定期的なプログラム点検，学生個々の食行動の見直し喚起，情報公開

取組の実施計画と将来性

20

各年度の運用

19年度：プロジェクトチームと連携体制の確立，プレプログラムフォーラム，農業体験の開始，資料作成，評価

20年度：支援情報システムの整備，食堂と「風土」の活動強化，CD・DVD・冊子の作成，評価

21年度：健康診断データとの対比，食文化支援，農業体験学習の深化，体験型実習支援活動の強化，評価

22年度：支援の充実強化，評価の総括，総括と課題の解決

人的・物的・

財政的整備

人的整備：総合学生支援センター，関連組織スタッフ，食関連教員，管理栄養士，医師，保健師，契約農業者

物的整備：栽培用地，ハウス，調理施設，学生食堂，食工房「風土」，実習設備

財政的整備

将来的にも

改善を重ねて

支援の継続



ありがとうございました